第８日

令和６年２月29日（木）

午後３時40分再開

○議長（小島清人君）　休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君）　16番の実藤輝夫でございます。今回の定例会一般質問の最後、トリを務めさせていただきます。

まず最初に、１月１日に起こりました石川県の能登半島地震におきまして、お亡くなりになりました方に心から追悼の意を表し、そして被災に遭われた方々に対しましてお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧・復興を願ってやみません。

また、今回、退職される方、長年にわたりまして本当に御足労をかけました。これからは退職される方、市に残られる方、様々だと聞いておりますが、また新たな人生を送っていただきますことを心から祈念申し上げます。

もう一つ、今日述べたいことは、１月２日に日本航空機と自衛隊機が衝突するという悲劇が起こりました。しかしながら、367名の乗客が無事に１人の死亡もなく救出されたということは、本当に全世界の各メディアが奇跡だと報道したことでありました。

私は、一昨年――１期目の方は話を聞いておられませんので、少し話をさせていただきたいと思いますが、御存じの京セラの創設者であります稲盛和夫さんが、様々な実績を抱え、倒産寸前になりました日本航空再建を依頼され、２年間で黒字に転換するという、これもまさに奇跡的なことをなされました。そのとき、私は稲盛和夫さんが京セラフィロソフィーという考え方を社内に持ち込みまして、様々な社内改革を行い、現在、７万人を超すという一大企業をつくり上げられました。その実績を買われて、日本航空の再建、その当時、非常に厳しかった社内体質と乗務員体質を変えるべく、京セラフィロソフィーと同じような日本航空の日航フィロソフィーをつくられました。その違いは、日航フィロソフィーは、まさに自分たちが自分たちのためにつくったものでありました。そのとき私は深く感銘を受け、稲盛和夫さんのインタビューのテレビ、90分を見させてもらい、幾つかの書物も読みました。そして、それがまさに一日一日実践されてきた。これを私たちは心に留めなければなりません。

そのフィロソフィーに基づいて、それから数年後の、この１月２日に起こった一大事件に対して、見事なまでに、パイロットと遮断されて通信ができない、そのときに乗務員は連携を取りながら、自分たちの考え、指示で動き、救済に当たった。まさにこれは、その当時、私が、市もこのような考え方の下に、行政一丸となって、職員は日々鍛錬しなければならないのではないかと。私は２回にわたりアテンダントと話す機会がありました。どんなふうですか、本当にあのようにやっておられるんですか。いや、私たちはそのとおり

やっております。毎朝、毎日、それに基づいて、精神的な面、そして実践の訓練をしている。その結果が今回の最大の世界のメディアに奇跡と言わせた事件として報道されました。私はこれを自分のことに置き換えながら、本当に議員として、私自身のフィロソフィーの下に鍛錬を続けてきたのか、忸怩たるものがあります。共に今回の悲劇を私たちの教訓としてなすべきではないかと思います。

もう一つ、今回は、通常60分が、市長の施政方針に基づく議会ということで、１人当たり70分、議員に与えられます。私がこれを申したいのは、長年、議員としてここにおらせていただきましたが、全員が丸々70分、もしくは70分では足らない、こんな熱の入った議会一般質問は三十数年の経験の中で初めてであります。まさに議会も燃える、そして、日々、私以上に鍛錬されている議員の集まりとなったのではないかと思いながら、うれしく思いました。

もう一つは、先ほど６番議員が大刀洗の幸福度ナンバーワンを話されました。少し簡単に終わるのかなと思ったら、丸々熱を込めて70分話されました。朝倉市は37位。福岡県には市町村60、市が29あります。その中で37位というのは残念なことだと思っております。

昨日、８番議員、熊本議員が有名人の朝倉市にまつわるルーツの話をされました。私も聞きながら、父方のルーツが大刀洗、大堰でありまして、私のルーツの大刀洗が幸福度ナンバーワンになったということは、私にとってはうれしいことであります。しかし、私は甘木で生まれ、甘木で育ち、そして、この甘木で生活をさせていただいております。父のルーツはルーツとして、私はこよなく、この甘木、そして今は朝倉市を愛しております。

一般質問の中にも郷土愛の醸成というテーマを掲げております。ここに生まれ育った一人として、私の任期の許す限り、先ほどの実藤フィロソフィーをつくり上げて頑張ってまいりたいと思っております。

少し長くなりましたが、以下、降壇して、質問席より執行部、特に今日は、明日の朝倉市長に問うということで、政策論争をさせていただきたい。また、教育長にも御答弁をいただきたいと思っております。降壇いたします。

（16番実藤輝夫君降壇）

○議長（小島清人君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　通告しております、まず最初に企業誘致ということを掲げております。報道が、この１か月で、私は西日本新聞を取っておりますけれども、１週間に二度三度、報道されておるところです。熊本県は、もちろん皆さん御存じのとおり、半導体の台湾の会社、ここにＴＳＭＣと略されておりますけれども、２月24日、先週、第１工場が開設されました。この新聞、その他、これを基にしながら、情報が私のところにあまり入っておりませんし、議員の方も、それほど多く、いろんな情報を知っている方は少ないのではないか。また、行政のほうも、担当部署は別として、それほど知っていないんじゃないかというふうな考えを持っております。

しかし、九州は、以前、シリコンアイランドの九州と言われたところでしたけれども、日本全国もそうですが、徐々に半導体の生産が少なくなりまして、まさに中国、アメリカ、なかんずく台湾がリードするような形になり、日本は後塵を拝しておるというようなところでありました。今回、台湾のＴＳＭＣという会社が、世界でナンバーワンと言われているんですが、これが日本に進出する。そのとき、熊本のほうに第１工場を造る。先ほど申しましたように、先週、開始をいたしました。それに伴って報道がなされています。第２工場も熊本県に決定をしたというふうに言われております。第３工場も、それに関連する企業という形で、九州を中心にして、この半導体のまさにシリコンバレーを再現するような状況が生まれてきた。これは九州知事会においても積極的に、九州経団連におきましても積極的に働きをしていく。そして、もう御承知のとおり、日本政府も数千億円の金を出して助成している。これが近隣の各市町村に非常に大きな影響を与えてくる。これに対して、私たちは具体的な報告を行政のほうからは受けておりませんし、今まさに、どのような動きになっているのか分からない。この報道が出されたのが昨年ですが、後からやりますけれども、昨年の12月31日に、うきはの問題が出てきました。それによって皆さんが承知するようになり、関心を持つようになっています。

今日は、まず第１番目に、このような状況の中で、うきはの問題は後でやりますから、全体的な九州の中における一地方自治体、朝倉市に限らず、全体的に、この話は九州知事会を含めて、その他、市長会でもあっているはずだと思いますが、まず市長、この流れの中においてお考えがあればお伺いしたいと思います。

○議長（小島清人君）　市長。

○市長（林　裕二君）　九州市長会、お尋ねの福岡市長会では、この議論はまだあっておりませんで、福岡県市長会は近々予定されていると。その中であるかも分からないということでございます。

シリコンアイランドの歴史を持つ熊本県、あの地域は水が非常に豊富なところでありまして、経済の動向によりまして低迷をしておったところに、ＴＳＭＣ、台湾の企業が、台湾自体には立地場所がないというふうに報道されておりますけれども、熊本県などに進出を考えられて決定をされたと。恐らく、これは私の考えですけれども、これだけのプロジェクト、そして日本の政府としても、非常に半導体の供給に苦労をしてきたということも、政府は知っておりましたので、その辺りは、恐らく知っていたんじゃないかなと推測しています。ただし、発表が非常に遅れています。ですから、周辺のインフラ整備とか、その他、対応すべきことが、熊本県、特に近郊、熊本市長とは話をすることが時々ありますので、熊本市長の話も含めまして、その対応に非常に、ある面では苦労しているということが１つと、熊本県は全国で５番目の農業産出県でありますので、農業関係者の声があまり表に出ていませんでしたけれども、最近は、熊本県の農業関係、なかんずく農地が潰れていくというようなこと等が話題になっていると、そういった話は聞いております。

いずれにいたしましても、ＴＳＭＣの九州熊本に立地をするということについては、非常に大きなことでありますので、朝倉市にとっても、担当部・担当課は、企業立地の会合が福岡県主催で行われておりますので、当然、それに参加をして、情報は得ております。そして、朝倉市に可能性がどうかといったことも検討しているというふうには聞いているところであります。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　総論として、そのように御回答いただくだろうというのは想定をしております。一番最初の私の質問自体は、今のような回答だろうと思いますが、一つ、私が突っ込んで質問したいのは、先ほどちらっと言いましたが、もう既に、県がうきはと提携して工業団地を造るというふうに、もう動き出しているということが、先ほど言いましたように12月31日の新聞で報道された。これに基づいて、市民の方から私のほうにも、何をやっとるんやと。どうなっとるか、これを聞いてくれと。私も情報を知りませんので、市長に、今日一般質問にあったのは、これは単なる半導体誘致が是か非かというだけの問題ではなくて、企業誘致そのものを市がどのように考えていくのか。しかも、今、実際上、幾つかどんどんやっていますけれども、これだけの大きな企業誘致というのは、恐らくそう簡単には来ないであろうと。

そういう中で、言いたいことは、この新聞で私もびっくりしたんですが、私が説明するよりも明確に私の思っていることが書いてありますので読ませていただきます。「福岡県と同県うきは市が、半導体メーカーなどの誘致を念頭に、同市西部に新たな大規模工業団地の造成を計画していることが分かった。世界大手の台湾積体電路製造（ＴＳＭＣ）の熊本県への進出に伴い、「シリコンアイランド九州」への投資需要が増している。この地域は半導体製造に不可欠な水資源が豊富で、関連企業進出の受け皿としたい考え。県は2027年度にも造成を始め、29年度の分譲開始を目指している。新団地は、資生堂福岡久留米工場などがある「久留米・うきは工業団地」に隣接する27ヘクタールの敷地を想定。同工業団地では、千人規模の地元雇用につながってきた。県は24年度予算案に、「うきは西部工業用地造成事業」として調査費を盛り込み、測量、設計に着手したい考えだ」「一方で、大分県自動車道朝倉インターチェンジから車で約10分の好立地で、福岡、北九州両空港や博多港を通じた輸出入もしやすい」と、こういうのが報道されたわけです。

他市がどうかこうかという問題よりも、まさに朝倉インターを使って、この企業誘致をしながら、うきは市は、このレールに乗っていこうとしている。こういうのは、やはりこれを見たときに、朝倉インターチェンジを利用して、27年に県のほうが用地買収をして、もう29年から分譲開始をするということですので、もう数年後には、私たちの目の前をその企業の車が通っていく。そして朝倉インターから各所に渡っていくというのを、私たちはまざまざと見せつけられる状況になるわけです。

まだまだこれから先、先ほど市長も述べられたように、いろんな問題がある。確かにそ

うです。しかし、なぜうきはは、福岡市長会でも、まだこれからというときに――私も、うきはに行って聞いたわけではありませんし、これは担当よりも市長と市長との話でないと本音の部分は分からんと。これは重大な政策決定ですので。だから、これは市長の真意として、今後、福岡県との関係で、市長会も含めて検討していくという回答でいいのかということを疑問に思います。これから先、この半導体そのものが朝倉市に来るかどうか、そういった問題もあるわけですが、市長として、これに対しての一つの考え方がないと、今の朝倉市の現状がどうかというときに、受け皿があるのかということと、この半導体そのものというよりも、関連企業もあるわけです。昨日も半導体の問題も出ましたし、いろんな問題がある。私も承知しております。だから、軽々に誘致するということではなくて、いろんな条件を、朝倉市にとって満たすような関連企業というものも考えていかなければならない。そのときに、１つは市長がどういう考え方を持っているかということと、受け皿としての朝倉市が対応できるのかということをお伺いしたいと思います。

○議長（小島清人君）　市長。

○市長（林　裕二君）　うきは市に、福岡県と、うきは市が協力して工業団地を造るという報道は、当然知っております。ただ、その背景については分からない部分が多い。それから、今度立地するのがＴＳＭＣ本体なのか、関連企業なのかといったことも、まだ明らかになっていないのではないかというふうに捉えているところであります。

朝倉市が半導体関連の企業、もしくは本体についてどう考えるかということについては、様々なクリアすべきハードルが、議員も言われましたようにたくさんございます。それから、半導体産業の今後どうなるかといった不透明な部分も当然あるということでございます。

そして一方で、朝倉市は先ほど議員も言っていただきましたように、企業の動きが非常に活発であります。朝倉市には、今、数百億円の投資が、ここ最近だけでも行われているという事実も実はございます。そして、雇用も非常に拡大してきているという中にありまして、今後どうするかということについては、ここで明言するわけにはいきませんけれども、今日は議員から具体的に御提案もいただきましたので、半導体関連産業の本市への立地については、しっかりと考えていきたいということでお答えをさせていただきたいと思います。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　今回、私が一般質問をしたのは、市長が今言われたように、今のような状況で、まだ今後の動きを朝倉市としては取っていないわけですから、これからして、数年後にこういう対応を取りますという形では、恐らくこの種の問題については手遅れになってくる可能性がある。一つの考え方としては、この半導体誘致ということを、そもそもの前提にしなくても、やはり本当に朝倉市は水の豊かなところであっても、それを使う権利を持っていない。工業用水は、もうキリンビールが独占をいたしておりますし、

それは非常にありがたい経過だったわけです。甘鉄を残すというときに、この工業用水をキリンビールが買ってくれた。その結果、出来上がった一つでもあります。

しかしながら、その一方、その後、朝倉市は工業用水についての施策を行っておりませんでしたので、この工業用水は今ない。そうすると、自然豊かな水が本当にあるのかというときに、水の豊かな街というスローガンだけはあるけれども、私のところの地下水は、昨年から枯渇いたしました。この周辺もそうです。今までかつて何十年なかったものがそのような状況で、今、幸いにして上水道を引いておりましたので、そちらのほうを全面的に使っております。

もう一つは、朝倉市は246平方キロですから広いところですけれども、財政的には、これは予算審査でも行われると思いますが、そんなに、今、厳しい状況ではない。ただ、豪雨災害、その他で、昨年からの突発的な出費が絡んでくる。本当に実質単年度収支は15億円の黒字を出しておるわけですから、こういった問題からすると、財政的な面からすると、昨年がふるさと納税29億円、今年度は24億5,000万円が予定されている。補正予算にも出ております。こういったものをいかに使っていくかという形で、財源の確保は今のところ最低限はできている。金がない、金がないだけではない。いかに使うかという。

先ほどから私を除いて９名の議員が切々と熱意を持って、込められて、地域住民の幸福のために質問されてきました。そういった形で、私がここで今日の段階では、市長にこれをどうするんだということよりも、市民に、このような問題があって、議会と市長とが、この半導体関連企業誘致という問題を一つのテーマにして、今後の朝倉、明日の朝倉をどうつくっていくのか、こういう形を私は取りたいと思って質問いたしております。今日の段階で白黒つけて、どうするこうするを問うつもりはありませんが、そんなに時間的余裕のあるものではない。もう、うきはは動き出し、その他のところもそれなりに誘致の動きをしているところもあるでしょう。しないならしないで、違うところの違う分野の企業を誘致できるような状態をつくれるのか。地下水で賄っていけるのか。やはりこれから先、大型の企業を誘致するとすれば、いろんな条件が必要ではないか。

先ほど、部署をつくって検討されるということで、私もこれを提案しようと思っていました。朝倉市の中で……。市長、先ほど言われましたよ。その意味ではないのか。今後、課をつくるとか部署をつくるかは別として、朝倉内部の中でこの種の問題を含めた取組をすべきではないか。なぜならば、施政方針の中には活性化の朝倉市をつくると言いながらも、企業誘致の話は１行も出てきません。来年度はそういった取組をしなくても、先ほど市長が言われたように、どんどん来よるということで、しなくていいのかというふうに私はこれを読みながら思いました。やはりそれはそれとして、今後の問題から考えても、企業誘致をこれをきっかけに、契機にして、朝倉市全体としても、部署をつくるか、つくらんかは別として取り組んでいくべきだというふうに思います。いかがですか。

○議長（小島清人君）　市長。

○市長（林　裕二君）　施政方針演説の中に具体的に企業誘致というのを盛り込んでいないという指摘がございましたので、企業誘致は基本的な経済活性化のものでございますので、企業誘致については積極的に、まず取り組んでいくということで御理解いただきたいというふうに思っております。

それから、部署は、先ほどの答弁では何課をつくるというような答弁はしておりませんので、今、議員から積極的な御提案もありましたので、ＴＳＭＣに代表される半導体企業の本市への立地、あるいはそれ以外の大きな企業の立地、今、問題を指摘されました水の問題、これは水をあまり使わない大きな企業も実はあるということでもございますので、こういったことも含めてしっかりやっていきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　時間の関係で、こればかり追及するわけにはいきませんので、私のお願いとしては、先ほどから話があっております幸福度ナンバーワン、福岡県市町村60の中で29の市の中で37位というのは、やはり私としては少しでも、１番にはならないかもしれないけれども、皆さんがこれだけこの２日間にわたって問題を提起され、いろんな角度で提言もされておりますので、幸福度ナンバーワンを一応目指すという形で、私も頑張っていきたい。市長もよろしくお願いいたします。

それでは、昨年の９月に秋月藩成立400年に関するいろいろな提言をさせていただいております。その中で、この400年という秋月藩成立を、この１年間、もう2024年になりましたので、成立というよりも、長興公が入城した年という形になってまいりました。これを見て、１年間――教育長、これは特に教育委員会が力を入れてもらったと思いますが、教育長として、もうすぐ１年ですが、どのようにこの400年の経過を、特に私は事業・イベントをしたということだけではなくて、地域に根差すような、まさに後から言う郷土愛の醸成、歴史に学ぶ郷土愛の醸成、これは後で私たちの朝倉でも出てきているわけですが、市長施政方針の中にも書かれております。それを踏まえて、本当に地域の中で朝倉市民がどれだけこれに関心を持ち、賛同していっているのかというのが、私はまだまだ疑問に思います。教育長としてどう思われるか、お伺いしたい。

○議長（小島清人君）　教育長。

○教育長（早野展生君）　本格的に、昨年度から秋月藩成立400年の事業でございますけれども、開始させていただいたわけでございますけれども、今、議員が申されましたように、本年度からが、また本格的な２年計画の最終年度という捉えで、事業では考えているところでございます。

それ以前に、やはり秋月藩が現在の朝倉市の中でどう位置づけがあるのか。また、それについて地域の方々がどれだけ知ってあるのかも含めまして、まだまだこれからそういった過去の江戸時代からの郷土の歴史を、まず地域の方、または子供たちに、私も含めまして勉強が必要ではないかというふうに現在は考えているところでございます。以上でござ

います。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　総論的な話を幾らしても、主観の問題という形になりますので。この前の９月議会でしたか、言い忘れておりました具体的な話です。ふるさと人物誌ほか「学校編」、「秋月」、「官兵衛を救った男たち」という資料を持ってまいりました。市長、ふるさと人物誌を見たことはありますか。そうですか。関心があるかどうか分かりませんけれども、教育長はいかがですか。

これは、５分間ぐらいですけれども、私もこれまでずっといろんなところに参加させていただいてきました。このふるさと人物誌、塚本元市長から頼まれまして、何かないかということで、甘木、朝倉、杷木が――ここが大事なところなんです――一体となるための何かないかということを相談されたわけです。市長、相談することは何も恥ずかしいことではないと思います。そして、彼は歴史が好きでしたので、私も考えを……。じゃあ建物より、箱物よりも、文化的なものはどうかという提案をしたら取り入れてもらいました。

それもさることながら、ここに集まっていただいた方が、いまだかつて私が集まった会合の中で最高の方々。恐らく教育長はみんな御存じの方ばかりだと思います。これは大先輩の方です。数十回会議を開きました。もめることは一度もなし。発言が止まることもなし。みんなが積極的に、私の出番があまりないぐらいに、すばらしい会を毎回させていただきました。これも作っていただいたんですが、その会を思い出すたびに、もう五、六人の方がお亡くなりになっています。そのときに、朝倉市の宝はいろいろありますけれども、人材という面では、これは過去の方々を書いておりますが、この執筆者は、その当時、生きた人材だと。本当に人格者ばかりでした。原稿を作るにしても、皆さんが意見を述べるときにも、積極的に各先生が皆さん手を挙げて、そしてそれをぱっと振っていくわけです。朝倉、甘木、杷木、全部が平等になるような形を取ります。そして、執筆を、私がやります、これをどうでしょうかと。そうしたら、それを書いてくる。そうすると、それをみんなで読み合わせをします。忌憚のない意見も出ます。ここはこうだ、こうだと。もめることはありません。みんな謙虚に、そして真摯に、これを作り上げてきました。私はこういうやり方もあるのだと、いまだに自分自身によって、本当に先ほども言いましたように、人格的にそれほどすばらしい男ではありませんが、このような人たちとこういうものを作り上げたことはうれしかったなと、私の思い出であり、宝であります。名前を言いたかったんですが、時間の関係もありまして……。

これを、私は朝倉市が今後三名君だとか、市長が中心になって藩校サミット、これはお土産にやるのに最適じゃないですか。朝倉市にはこれだけの偉人がおりましたと。これは本当に、秋月種実、黒田一成、栗山大膳、黒田長興、黒田長舒とか、ずっと、それから知らないような各地区の方が、これに40名載っております。この挿絵を佐野先生にしてもらったんですが、これは、今、作ろう、これから作ろうと思っても、教育長どうですか、簡

単にはできんとではないですか。これだけの歴史家メンバーが集まって、私もその中の一人で、恥ずかしながら出席させてもらっておりますけれども。これを、私はいろんな方が来られたときに、おあげになって、朝倉市のふるさと人物誌ですと。これは立派なものです。どうですか市長、これを増版、増刷するということで、今、総合政策課と人事秘書課が動いていただいて、検討するというような形になっておりますが、市長、非常にあなたの部下が積極的に動いてくれるんです。

○議長（小島清人君）　市長。

○市長（林　裕二君）　職員がいろいろと検討しているという話がありまして、私は、実は、ここに持っておるとです。これですね。細かくは読んでおりませんけれども、11名の執筆者の皆さん方が平成18年３月の合併を機に、毎月、広報あさくらで、40回記載がされ、それをまとめたという形で作られたということで、秋月に関する、黒田・秋月に関する人物も、かなり全般のところを中心に記載があるということで、これはやはりいいなと私も本当に思います。

それで、今年は議会の皆さん方にも御理解をいただきながら、三名君フォーラムを今年秋に予定をしておりまして、恐らく米沢、高鍋から、かなりの方が来られるということになると思います。そして、来年秋には、朝倉市で藩校サミット、恐らく40藩以上、今、藩が続いて活動されておられる藩校サミットでありますが、徳川家をはじめ、全国からお見えになるということで、ここ秋月藩の15代当主が東京におられまして、非常に積極的に動いてあるということも含めてありますので、これをそういった方々に知っていただくということはあると思います。

ただ、装丁があんまり立派やから、相当お金がかかったんじゃろうと思うんです。今、言われますように、これをもうちょっと、傍聴の人もおられるからなんばってんですな、もうちょっと安価に作ることも含めて、ぜひ検討をしていきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　そこに至って金のことを言いますか。これだけのものを作ろうと思ったら、もうできないんですよ。ね、教育長、このメンバーを集めることはもう不可能です。これだけのものを。これは、そんなに1,000万円も2,000万円もかかっているわけじゃありません。百何十万円かです。

今度は教育長、ふるさと人物誌、これは前々教育長の尾野先生から、私、頼まれたふるさと学校編なんです。これはもう20年に発行されていまして、もう十何年たっておりますけれども、これも時間があったらいろいろ聞きたかったんだけど、恐らく十分に利用されていると思います。足らなければ、やはりこれも増刷されるということが必要かなと思いますが、簡単にどうですか。

○議長（小島清人君）　教育長。

○教育長（早野展生君）　今、申されました、ふるさと人物誌の学校版でございます。簡

易版でございまして、市内の小中学校等に既に配布されていまして、日頃の授業、総合的な学習の時間とか、学活とか社会科の時間とか、そういったところで今でも活用をさせていただいているところでございます。この増刷については、また検討させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　朝倉市も捨てたもんじゃないですよ。やはりいろんなこういったものが作れるわけだから。これは商工観光課が積極的に作った――秋月です。これも立派なもんです。これはぜひぜひ議員の皆さんも、先ほどのふるさと人物誌も出来上がったらもらってください。梅ヶ谷も載っていますよ。いっぱい皆さんが望むような方、知らない方、たくさん載っています。40名。これは乞う御期待です。

これは、今まさに400年事業をやっています。それで各地区に話をしていますけれども、これを参加者にお渡しするということで、この前、私のところに来た教育委員会と文化・生涯学習課、それと商工観光課の人に話しましたら、もう早速、これは本当にいいということで、2,000部作って増刷になるんです。市長、幾らかかると思いますか。2,000部です。これ、十何ページあります。25万円です。1,000万円と違いますよ。もう金のことは置いて、朝倉市を文化的にするとに、金も大事だけれども、そんなに費用のことは、私言いません。2,000部で25万円と、この前、話を聞きました。僕は3,000部でもいいと。みんな、朝倉市民で参加して、これはもう見られたら分かるんだけど、内容から、それから歴史的な遺品から、それから文化史まで、全部載っています。これは、よその各市町に行政視察へ行っても負けません。私は一番だと思っております。これは商工観光課がちゃんと、この中に私の文章も相談なく入っておりますけれども。それは冗談として、いいですが。

もう一つ、実はこれも商工観光課が作って、時間があまりありませんので、簡単に言いますが、「官兵衛を救った男たち　黒田一成と加藤家展」ということです。これも私、見に行きました。この中に、実は有岡城の流れで、９番議員の加藤正二議員が出てくるわけです。加藤家が。この展示に御協力をいただいた方に親戚の方も載っております。私たちの同僚議員の中に、実は平瀬加藤の15代当主です。冗談を半分言わせていただいて、肩の荷を下ろす形で。世が世ならば殿様と言わないといかん。というのは半分冗談ですけれども、これは事実です。事実の話です。だから、秋月の関係だけではなくて、黒田一成のいとこであります９番議員の御先祖様とは、ずっと平瀬加藤という形で、こういうふうな文章に出てくるわけです。この中には、先ほどの秋月の中には、栗山利安、杷木です。大膳、円清寺です。それぞれ三奈木の黒田、蜷城の加藤、そして、杷木の栗山というのは、各歴史がここに載っておりますので、ぜひぜひ、我が郷土を、私たちが愛さないと、市民に対して歴史をやりなさいとか、何とかというわけにもいけませんので、心ある――いろんなところへ行って、郷土史をやりたいな、知らないことも勉強したいなと。

そして、まちづくり、私はまちづくりと書いております。ただ郷土を勉強するだけじゃ

いかん。これを基にしながら、何らかの過去の先人たちがつくり上げてきたものは、これから先の新しい朝倉市に役に立つことはないのかというふうに思って、今日、話をしております。

先ほどのサミットも教育委員会からもらいました。こういうのを作っていくんでしょう。これは立派なものです。殿様の顔がいっぱい載っておりますが、これもまた朝倉市版が出来上がってくると思って楽しみにしておりますけれども。既設のもので、私が今、推奨しているのが４冊です。これ、ぜひ、市長を中心として――もう職員さんたちは、非常に意欲的に、こういうのは大事なものだと思っております。昨日から出ています職員の意欲を大いに奮い立たせながら、知恵を絞る。

１つだけ、私、提案をしておきます。時間があまりありませんけれども、この秋月400年に思うという形で、歴史に学ぶ郷土愛の醸成ということで、まちづくり。私もその中の一員だった、ふるさと人物誌。このように、郷土の、上秋月、秋月、ずっとあります。旧甘木市が11地区。それから、朝倉、杷木、それぞれの地区があります。こういうのを自分の郷土の歴史という形で書かれたらどうですか。これは本当を言ったら、先人から私が頼まれたように、市長からとか、教育長から、何かありませんかというような形で頼まれてもいいような中身だと思うんですけれども、私が言うと、一議員が出しゃばっているような感じですけれども、市長は、議員にも何かないかということで、お互い、どっちがどっちの分野という形ではなくて、行政も議会の議員も一緒になって、朝倉市を何とかしたいということで協力をさせていただきました。これを作り上げることによって、私たちがやったように、これは毎回、作り上げて市報に入れたんです。市報は全部に配布しております。心ある人は、これを綴じて、いまだに持っているという人もおります。そのときは井上恒夫さんが企画課長やったかな、その人たちが人選して教育委員会と話をして、執筆者を選んで。そして、今まさに私たちの朝倉というのが小中学校に出ますけれども、私たち大人にとっての朝倉は何でしょうか。やはり朝倉全体と同時に、自分が生まれ育った、今住んでいるところの地区の歴史というものもみんなで共有して、全体的になるというのがいいんじゃないでしょうか。だから、こういう人たちを、現在、私も誰が誰というのは知りませんけれども、お探しになれば、それなりの人たちが出てくるはずですので、こういうのを400年の事業の一環として、必ずしも秋月というふうに限らなくて、私はやはり朝倉市の郷土というものに対する郷土史、そしてそれに基づく子供たちから私たちの郷土愛の醸成、それがまちづくりにつながっていくという形で、このテーマを出しておりますので、市長、教育長、どちらでも結構ですけれども、この考えはいかがでしょうか。

○議長（小島清人君）　市長。

○市長（林　裕二君）　大変いい考えであると思います。いろんな方面から示唆をいただきましたので、教育長とも話をして考えていきます。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　新しい人たちが新しいものをつくっていくという一つのきっかけにもなるのかなと。人材育成にもなるし、人材発掘にもなるというふうに思っています。時間の関係で先に行きます。一つの結論が、市長からも積極的な回答をいただきましたので、この問題については、議員も、ぜひぜひこれができましたらもらってください。読んでください。本当に、この４冊、必ず参考になると思います。

次に、時間があまりありませんので急ぎますが、市長は、市政報告会をやったらどうかというふうに提案をしております。議会は議会なりに、議会報告会、意見交換をするわけですが、市長としてもやはりやるべきではないか。かつて塚本勝人元市長は、副市長――その当時、助役でしたけれども、総務部長以下、コミュニティとの連携を取りながら各地を回っておりました。生の声を聞くのも、やはり市長の役割だと。いろんな意見、辛辣な意見も飛び交うでしょう。しかし、それはそれとして、来賓で話すのと、ある会合の中で話すのとは、また違ったものが出てまいります。そういった生の声を聞くということで、市長の市政報告会をお勧めするということでいかがでしょうか。もう時間がありませんので、簡単でいいですけれども。

○議長（小島清人君）　市長。

○市長（林　裕二君）　以前にも御提案をいただきまして、そのときは状況を考えながら考えていくという答弁をしたというふうに思っております。現在は、御案内かと思いますけれども、基本的に毎月、こんにちは市長室というので、朝倉支所、杷木支所に大体月１回行って、そして職員からいろいろな話を聞いたり、課題を聞いたり、こっちからいろいろ話をしたり、来ておられるお客さんに私から話しかけると、そういったことをやったりしているところでございます。

それから、懇談会としては、男女共同参画関連団体、それからシルバー人材センター、それから障がい者団体、こういった団体の皆さんとは定期的に行っているということでございます。

いよいよこれから先、市長としての政策を市民の皆さん方に伝えていくというようなことは非常に大事であるという認識は、実は強く私も持っております。そして、市民からいろんな意見を聞くのも大切だと思っておりますので、どうやったらいい方向でやれるのかといったことで検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　ぜひぜひ一般市民との意見交換、あるいは市政報告をお願いしたいというふうに思います。各種団体は毎回もちろんのことではありますが、生の市民の声を聞いていただきたいと思います。実現することを願っております。

時間がありませんけれども、後継者不足という形で３つ。これ以外にもたくさんあるわけですが、時間の関係で、この３つをまずは取り上げていこうと。

まず、農業問題については、昨日、５番議員が農業の担い手という問題で、強く明快に

質問されて、答弁もありました。答弁内容は、私ももうもらっておりますので、時間の関係で、これを今さらやっていく……。ただ一つだけ、市長、私、これを聞きながら、色々意見交換を職員さんたちともしながら、常に思うのは、かなり手当は出ていますね。農業者に対する手当はかなりあるんです。資料がここにあります。知らない方はもらってください。でも、何で担い手が不足していくのか。この問題を――それ以外の原因があるはず。やはり農業環境問題、収入の問題、それから結婚、なかなか若い女性が農業に携わらない。そうすると、生産の人口も減ってくる。昨日もありましたが、生産人口は、2024年では３万2,000人。でも2050年では１万8,000人になりますという統計が正式に出ました。その中に農業社会の後継者不足、担い手不足というのが出てくるだろう。これは時間的な問題、２番、３番のほうも多くありますので、昨日の話を前提にしながら、農業の担い手づくり、あるいは後継者育成というものは、今後の大きな朝倉市の課題である。５番議員の質問と答弁をもって、これに今回の私の質問は代えさせていただきたいと思います。

次に、筑後川の鵜飼の問題です。これも先ほどから言っている施政方針の中に鵜飼の話が出てきているわけです。しかし、鵜匠は、残念ながら、ここにパンフレットがありますが、今、お二方なんです。１人の方は杷木の方で梶原さん、もう一人は、うきは市の臼井さんという方です。この前、私も改装したときに、たまたま梶原さんが舗装されまして、クロスをされまして、もう何時間も彼といろんな話をする機会がありました。今、昭和26年生まれでしたか、もう七十二、三歳になられて、自分も受け継いできたから、体が動く限りはやるけどと。だから、鵜飼全体の問題ではなくて、鵜匠の後継という面で、市長、これは何か方法を取らないと、自然消滅してしまいます。もう後はいないよと。梶原さんの声はそうです。臼井さんは40の後半らしくて、まだまだ頑張ろうというふうに言っていただいているというのを梶原さんからも聞きました。しかし、自分はあと数年だよという話でした。

だから、今、もう浚渫工事が始まっていますけれども、鵜飼全体の何かイベントをするのは、今年、来年、再来年、その数年間はできるかもしれないけど、鵜飼そのものもさることながら、その前提となる鵜匠がいなくなっちゃうと。そうしたら、もうそれはできないわけです。その何らかの方法を取るということで、市長は鵜飼の鵜匠問題を捉えないと、鵜飼は存続しない。私は、ここに資料をもらいました。全国で十数件。これもまた、今、作ろうと思っても、原鶴温泉と、この鵜飼は、やはりセット。それがセットになるかどうかは分かりませんけれども、やはり数少ない鵜飼ですので、これは存続していかないかんなと私は思いますが、市長、この問題について考えたことはありますか。ひとつどうしたらいいか御答弁ください。

○議長（小島清人君）　市長。

○市長（林　裕二君）　鵜飼、全国11か所、九州２か所に減ってしまっております。長良川は国の国家公務員が担っているということも知っております。当然、行ったこともござ

います。鵜飼については、原鶴旅館組合のほうから、ぜひ鵜飼を残すために、いろんな要請があっておりますので、これに応えるような形で、いろいろ対策をやっているということであります。具体には長くなりますから申しませんけれども、私といたしましては、貴重なものでありますので、ぜひとも残したい。その根底となる鵜匠さんたちのことをしっかり考えていきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　いただいた中で、12市が鵜匠を抱えております。それで鵜匠の人数というのも出されております。いただきました。やはりそれぞれのところで鵜匠をどういうふうにして抱えているのか。要するに、職員として抱えているのか、委託なのか、いろんな方法があるんだろうと思います。それは、梶原さんの話によると、やはり早めにしておかないと、専門家を呼んでくれば別ですけれども、育てていくという形では時間がかかりますと。鵜との相性もあるそうです。いろんなものが鵜匠を育てていく中ではあるそうですので、どういう方法で、鵜飼そのものもさることながら、これは原鶴温泉もいろいろあるし、市長もいろいろ関係があるでしょう。ただ、鵜匠そのものの後継という面だけを捉えていくと、これは積極的に、市長がこういうふうにやるというふうにやらないと、鵜匠は完全に消滅するということになります。今年は花火大会も、もしかしたら鵜飼もあると思いますので、そのときはその姿を見ることができますけれども、数年後には、もう鵜飼は見られなくなるようなことであっては情けないと思いますので、先ほど市長が一生懸命やるということを回答としていただいて、何かあれば。その結論でよければ、鵜匠の後継を育てるという形でようございますか。

○議長（小島清人君）　市長。

○市長（林　裕二君）　鵜飼存続の根幹となる鵜匠さんの後継者育成という言葉で表現させていただきますけれども、このことは非常に大事なことでございますので、原鶴温泉旅館組合等から要請も受けております。関係される団体等もございます。そういった皆さん方の意見もよく聞いて、そして本市の職員は全国の鵜飼大会にも出張で行っておりますので、いろいろ勉強もしております。そういったことも含めて取り組んでいきたいと思っております。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　今、全国で放映もされておりますが、祭りが消滅しております。この前も蘇民祭がなくなると。山笠、甘木もどんどん担ぎ手が少なくなりまして、人口減と担ぎ手が少なくなるということで、いつまでもつかどうかというのも心配しておるところです。私も、実は去年も山笠に出ました。市長より３つ上です。でも担ぎました。走りました。何とかやりました。あと一、二年、今年は分かりません、もう今年からだめかもしれませんが、今、階段の上り下りをしておりますので、何とか今年までは頑張りたいと思います。祭りを消滅させると、地域のまちおこしがどんどんなくなるということです。

最後に、猟友会の後継者という形で出しております。私は猟友会のことについては詳しくありませんし、その問題を取り上げるつもりは全くありません。ただ、この議会を通じてもそうですが、その前の決算も、一般質問もそうですけれども、既に五、六人の議員さんが有害鳥獣問題を取り上げられてきました。私も取り上げてまいりましたが、ここに細かい、甘木、朝倉、杷木の銃とわな、両方絡んでいる人。資料を本当はやりたかったんだけど、時間がありませんので。私一人が農林課長と共有しておりますが、こういう問題を、これだけの議員の関心があるんだったら、どういう状況になっているのか。研究会でも、これだけに限らず、今回はいろんな問題が出てきておりますので、議会が活動するような状況で、行政と――追及するんじゃなくて、手を携えながら前向きにやるためには、課長はみんな一生懸命やると言っています。だから、そういう意欲を、議会も有志議員だけでも、この問題だけではなくて、先ほど言った歴史の問題も含めて、あるいは企業誘致の今の朝倉市の現状、そういうのも私たちはもう一度勉強していかないかんし、前向きに私たちが提言できるようにしていかないかんのだろうと思います。

かつて10年前に人口問題研究会というのを、ここにおられる人で参加された方もおられるんですが、９名の人たちで実行していきました。これから先、今後、いろんな問題が出てくる。

この猟友会そのものがいろいろな問題があるかどうか、私は本当に感心してます。ようやっていただくなと。本当に命がけのときもあるんじゃないかと思います。だから後継者が簡単にできるとは思いませんが、この猟友会の人たちに対する敬意を表しながら、そしてまた行政と……。これは横断的に東峰村、筑前町も関連しております。鳥獣は境界線がありません。ここから入ってくるかもしれん、こっちも行くかも分からん。だからお互いに、こういうものを朝倉郡全体の共有課題として、鳥獣は増えることはあっても減ることはない。しかし、この後継者は減ることはあっても増えることはないという逆論理になっておりますので、これは早急にやっていかないと、どんどん……。

そして、一つ皆さん方にも紹介したいのですが、アライグマに対する県の動きが出てまいりまして、これは農林課長からも詳しく聞いておりましたので、もう質問しませんが、県下でアライグマがどんどん増えて、中山間地ではなくて、甘木にも出てきている。こういう状況です。菌を持っています。だからしっかりと、このアライグマ対策をやる。県が動き出した。これは４月からいろいろやっていくということでありますので、これに併せて、私も議員の一人として、いろいろこれに関心を持っています。私は猟友会の皆さん方にお頼みするしかない立場にありますけれども、議員という立場と行政の皆さんと手を結びながら、この問題はずっとこれから続いていくと思います。なかなか解決……。

ちょっと時間ありますね。市長、簡単でいいですけれども、私の気持ちを受けながら、どう思われるかをお聞きしたいと思います。

○議長（小島清人君）　市長。

○市長（林　裕二君）　有害鳥獣対応といったことは、近年の大きな課題でありまして、日本全国の課題と。熊はおりませんけれども、今おっしゃいましたように、アライグマ、これは非常に凶暴性がある外来種でございますので、これをどうにかしなければいけないということが、福岡県が取り組まれるということでありますので、これは相当被害があるし、病気の問題とか、天井裏でがたがたしますから。うちの家も実は入っておりましたので、よく分かっております。よく理解しました。ぜひ実藤議員さんも頑張っていこうということもありますので、議会の皆さん方の御理解もいただきながら、猟友会、有害鳥獣駆除委員の皆さん方に感謝しながら、しっかりやっていきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君）　16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君）　私の一般質問は、時間がありませんけれども、これで終わりますが、議員の立場で、私の任期の間は全力を尽くして頑張っていきます。

○議長（小島清人君）　16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

以上をもって、通告による一般質問は終わりました。これにて一般質問を終了いたします。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は、明日３月１日午前10時から行います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後４時50分散会